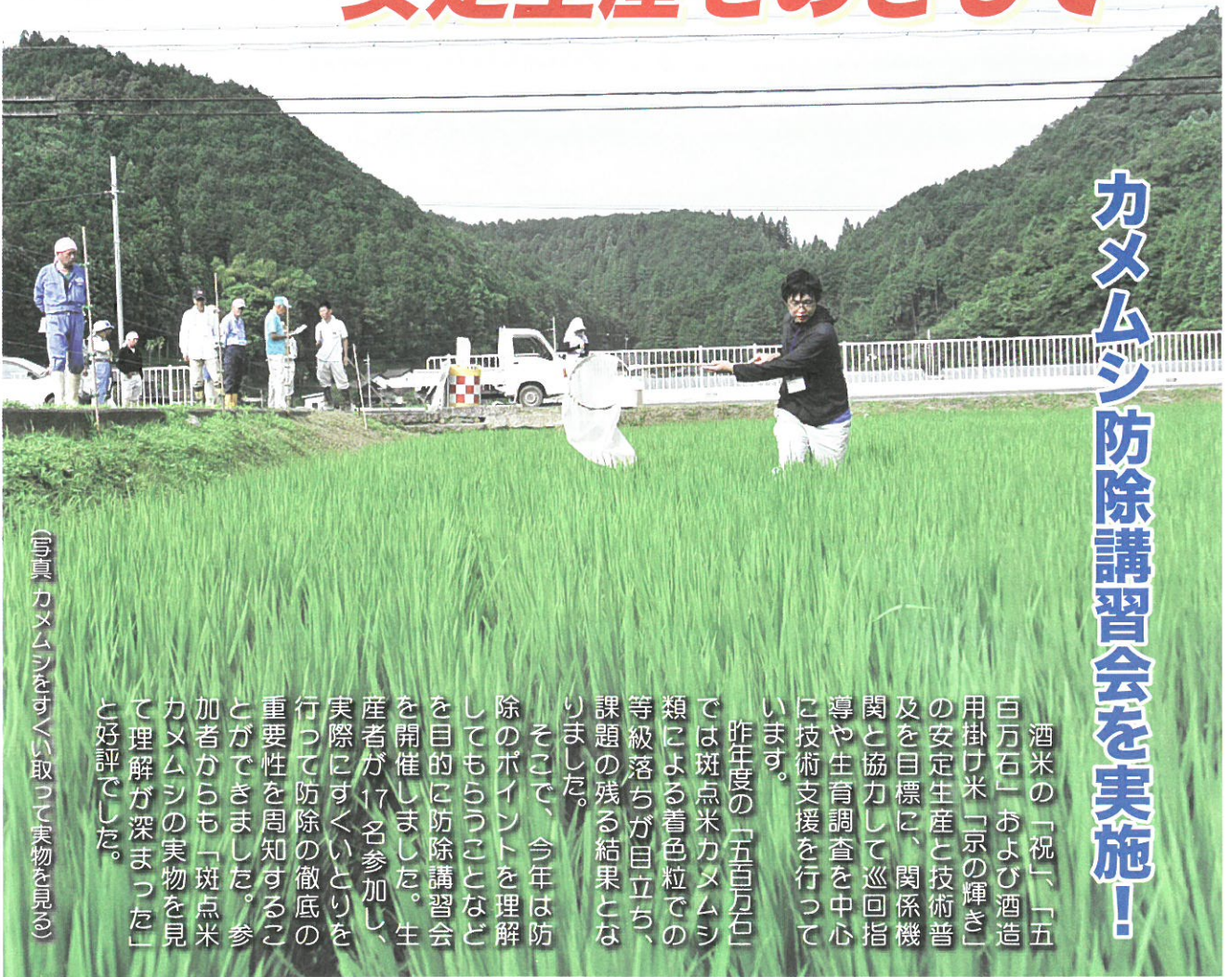




普及センターだより

酒米・五百万石の 安定生産をめざして

カメムシ防除講習会を実施!



(写真カメムシをすくい取って実物を見る)

酒米の「祝」「五百万石」および酒造用掛け米「京の輝き」の安定生産と技術普及を目標に、関係機関と協力して巡回指導や生育調査を中心に技術支援を行っています。

昨年度の「五百万石」では斑点米カメムシ類による着色粒での等級落ちが目立ち、課題の残る結果となりました。

そこで、今年は防除のポイントを理解してもらおうことなどを目的に防除講習会を開催しました。生産者が17名参加し、実際にすくいとりを行って防除の徹底の重要性を周知することができました。参加者からも「斑点米カメムシの実物を見て理解が深まった」と好評でした。

京都府中丹広域振興局農林商工部

◆発行◆
2016年(平成28年)8月

にし
中丹西農業改良普及センター

〒620-0055 福知山市篠尾新町1-91
TEL 0773-22-4901

e-mail:chushin-no-nishi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

ひがし
中丹東農業改良普及センター

〒623-0012 綾部市川糸町丁畠10-2
TEL 0773-42-2255

e-mail:chushin-no-higashi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

～様々な角度から頑張る方々を紹介～

与保呂三字地域 (舞鶴市与保呂、木ノ下、常)

- ・中心となる担い手 2戸+1法人
- ・水田面積 49ha
- ・スローガン「みんなで農地を守り、活気あふれる与保呂三字をつくらう。」



よほろ収穫祭
地域内外から2千人が集う(10月)

平成7年のほ場整備を契機に与保呂三字営農組合が結成され、平成25年1月に(株)よほろファームとして法人化しました。京力農場プランの核的担い手として、農地の集積、特別栽培米や万願寺甘とう、小豆の生産と米の産直など地域の農業を守る

仕組みづくりに加え、市民農園(40a)の設置や今年で19回目となる「よほろ収穫祭」など地域の活性化にも取り組んでいます。こうした結果、出資者110名、オペレーター20名になり、遊休農地はほとんど発生していません。小豆の生産安定や中山間特有のほ場整備後の大きな畦畔の除草などが課題ですが、交付金等を活用しながら鋭意取り組んでいます。



「京力農場づくり事業」で導入した播種機による小豆の播種作業

京力農場プランで頑張る地域

地域で活躍する農業士



櫻井 喜仁 さん
(綾部市館町)

寺甘とうなど様々な野菜を栽培しています。昨年度から京都府立農業大学校1年生の派遣実習の受け入れを行っています。農大生の作業している姿を見ると、研修時代の自分を思い出し、自分も様々な人に助けられてここまで来られたのだと実感しました。これから農業を志す人には、積極的に地域と関わりを持ちながら夢を実現して欲しいと思っています。

担い手養成実践農場の研修を経て、平成21年に綾部市で就農しました。現在、1.4haの茶園で玉露、てん茶栽培に加え、万願

担い手養成実践農場研修了者にきく



小林 弘明 さん
(平成28年 就農)
福知山市

経営内容(28年度)

- ・万願寺甘とう 3.5a
- ・紫ずきん 20a
- ・ハウレンソウ 20a

農業の厳しさを肌身に感じました。技術指導者をはじめ、周りの方々に助けられて無事研修を終えることが出来、感謝しています。研修をする中でスムーズに就農出来たと思います。今後は、農業でサラリーマン並みの収入が得られることを実現したいと思っています。

昨年、12月に就農し、念願であった農業経営を開始することが出来ました。2年間、実践農場で研修しましたが、大雪によるハウス倒壊、獣害、そして、平成26年の水害を経験し、

就農準備型

「万願寺甘とう」「黒大豆枝豆」の産地強化

消費者から人気の高いブランド京野菜の「万願寺甘とう」と「黒大豆枝豆」。ともに中丹地域の農業にとっては重要な特産物です。「万願寺甘とう」は、昨年、産地全体の売り上げが初めて3億4千万円に達し、今年は更なる飛躍が期待されています。黒大豆枝豆は生産者の作業性向上や消費者の多様な需要への対応等、年々工夫が図られています。両品目を安定生産していくために、主に若い農家、意欲的な農家を対象とした技術習得や、省力化および高温期収穫物の品質保持技術に関する支援を本年の主な課題としています。



京力農場プランの実現による地域農業の維持・発展

中丹3市の71地域で京力農場プランが作成されています。京力農場プランとは、近い将来に貸し出される農地とこれを借りる中核的担い手をリストアップし、農地貸借の調整等を図った計画を指します。普及センターは、プランを作成した地域の多くを訪問して地域の実情を聞き取り、他地域の情報を提供しながら新たな取り組みや問題解決を支援しています。また、プラン作成地域が相互に情報交換することも支援しています。



その他に、今年度に取り組む普及重点計画の活動概要を紹介します

若い担い手の育成

中丹管内には、経営拡大や経営に意欲的な農業者の方が多数あり、生産技術や農業経営の理解度、実状、課題、改善点、目標などが異なります。そこで、普及センターでは、12戸の農業者を重点支援対象として、各々が抱える課題を改善し、目標を達成するため、それぞれに合った生産技術の向上及び農業経営の安定・発展の支援を行います。また、のくに茶業青年団が行う茶のPRや研修などの活動支援を行います。



新たな担い手の育成

中丹地域の農業の担い手を育成するため、「中丹地域農業基礎講座」と「京夏ずきん・紫ずきん新規栽培者講座」を開催します。地域を支える農業者の減少が中丹地域の大きな問題となっています。新規就業者や定年帰農者等を貴重な担い手候補と捉え、そのような方々を対象とした農業の基礎的内容の講座を開催し、一人でも多くの方が新たに農業に携わっていただくような活動を図ります。



地域農業を担う法人の経営支援

集落型農業法人は京力農場プランの核的担い手として位置づけられ、将来にわたり地域農業を維持する役割が期待されています。しかし、生産技術、組織運営等で課題のある法人も多く、経営の安定が求められています。今年度は中丹管内の3法人に対し、それぞれの法人が抱えている課題(葉物野菜の機械導入による省力化、水稲の排水・雑草対策、畑地の新規有望品目の選定等)の解決のために総合的支援を行います。



地域特産物の振興による地域の活性化

中山間地域の所得確保と遊休農地対策として『山ブキ栽培』に取り組む集落が増えつつあります。今年度は特に集落営農組織(以下、「組織」)の取り組みを支援するため、栽培を希望する組織を対象に、8月に福知山市の現地ほ場で栽培講習会を実施します。水稲を取り巻く情勢が厳しい中、山ブキは地域の農地を守る栽培品目の一つとして、また、地域の女性や高齢者の活躍の場づくりとして期待されています。



〇〇さん家のお料理レシピ 「新ジャガと鶏肉の旨煮」

夜久野町生活研究グループに公民館主催「男の料理教室」で調理したメニューをお聞きしました。



- (材料(6人分))
- ジャガイモ 600g
 - 鶏肉 300g
 - 玉ネギ 1個
 - エンドウ 少々
 - だし汁 2.5カップ
 - 砂糖 大さじ3
 - みりん 大さじ1
 - 醤油 大さじ4
 - サラダ油 大さじ1

- ①ジャガイモはしばらく水につけてからタワシでこすり皮をむき、一口大に切る。
- ②鶏肉は一口大に切り、玉ネギはくし型に切る。エンドウは柔らかく塩ゆです。
- ③鍋にサラダ油を入れ熱し鶏肉を炒め、白っぽくなればだし汁を加え、ジャガイモを入れ、柔らかくなるまで煮込む。
- ④砂糖を入れ煮込み甘味を含ませた後、玉ネギと醤油を加えて味を整える。
- ⑤出来上がる直前にみりとエンドウを加え照り良く仕上げます。



～晩酌のもう一品どうぞ～



茶どころ中丹の魅力を発信!

中丹地域は玉露やてん茶（抹茶の原料）の産地ですが、地元ではあまり知られていません。にのくに茶業青年団では、地元で中丹のお茶を知ってもらおうと、今年各種イベントで、中丹で生産された玉露のお茶カフェを開いたり、茶を使った商品の開発、試食など茶の魅力を伝える活動を計画しています。

※出店予定イベント（H28年6月現在）：10月「SEATOSUMMIT 環境シンポジウム」、「全国育樹祭」関連行事、「赤煉瓦フェスタ in 舞鶴 2016」など。

『中丹地域農業基礎講座』の受講生募集

農業を始めて間もない方やこれから本格的に農業を取り組もうとしている方、定年帰農者の方等を対象に、農業の基礎的な知識習得を目的とした講座を10月初旬から12月中旬に6回開催します。

●講座の主な内容

野菜の栽培概要、病虫害対策、土づくり、農業機械の安全使用、鳥獣害対策、先輩農家の話など

●募集期間

平成28年7月25日(月)～8月31日(水)

●問い合わせ・申込み

中丹東農業改良普及センターまで

農業ビジネスを支援します

農業経営をさらにステップアップさせるため、農業を「ビジネス」として捉え、商工業者と連携して新しい商品（価値）づくりに取り組む事例が増えつつあります。

京都府ではこれらに興味のある農業者、商工業者が集う「きょうと農業ビジネスプラットフォーム」を運営し、セミナーの開催や互いの情報交換、プランづくり等を支援しています。

6次産業化や農商工連携をお考えの場合はご相談ください。



秋も農作業安全

残念ながら、農作業事故の発生が続いています。あらためて農作業安全を呼びかけます。

- 1 コンバイン、トラクターの進入は田畑に直角に低速で。
- 2 詰まった草やわらを取り除く時は、エンジンを止めてから。
- 3 あせらずゆっくり。農作業の段取りを組み、時間に余裕をもって行動を。
- 4 刈払機では肩掛けバンドの適正な装着と保護めがねの着用。

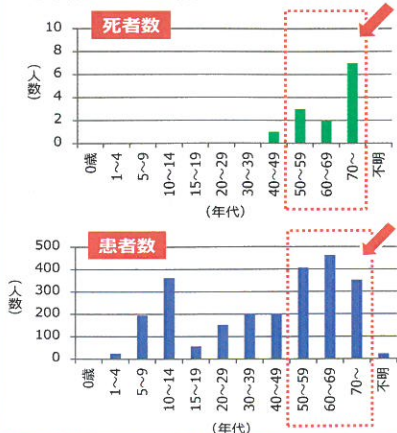
おじいちゃん、おばあちゃん、**食べないで!**

それ、**有毒植物**ですよ!!



高年齢の方が、野菜などと間違っ
て食べて、死亡する事
が発生して
います

年代別にみた有毒植物による食中毒患者数・死亡者数（平成18年～27年）



トリカブト

【中毒症状】
食後10～20分以内で、口唇、舌、手足のしびれ、嘔吐（おうと）、腹痛、下痢、不整脈、血圧低下、けいれん、呼吸不全に至って死亡することもあります。

【間違えやすい植物】
・ニリンソウ
・モミジカサ など

グロリオサ

【中毒症状】
口腔・咽頭灼熱感、発熱、嘔吐（おうと）、下痢、背部疼痛などが発症し、臓器の機能不全などにより、死亡することもあります。

【間違えやすい植物】
《根》・ヤマイモ

イヌサフラン

【中毒症状】
嘔吐（おうと）、下痢、皮膚の知覚減退、呼吸困難。重症の場合は死亡することもあります。

【間違えやすい植物】
《葉》・ギョウジャニンニク ・キボウシ と類似。
《球根》・ジャガイモ ・タマネギ など

- ✓ 家庭菜園や畑などで、野菜と観賞植物と一緒に栽培するのはやめましょう。
- ✓ 有毒植物が野菜に混じっていることがあります。食用と確実に判断できない植物を食べるのはやめましょう。
- ✓ 食用の植物だと思っても、植えた覚えのない植物を食べるのはやめましょう。

出典：厚生労働省ホームページ